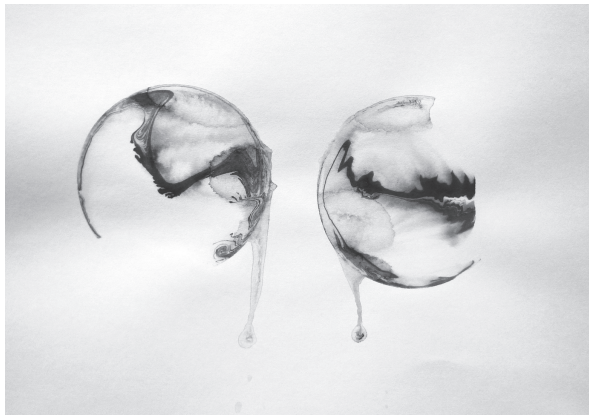


スマホ時代到来による 対人コミュニケーションの変化

県教育委員会委員

上 地 玲 子



いまや多くの人が手にしているスマートフォン（略してスマホ）は、大変便利なツールである。

私の日常生活でも、スマホが大活躍している。通話機能だけではなく、「アプリ」を活用した家族のスケジュール管理、SNSやメールによる情報交換、子どもの学習ツールなど、パソコンを開かずに手軽に使えるので、スマホがない生活はもはや考えられないほどである。

このスマホは、思春期の子どもにも便利に使えるツールではあるが、その反面依存性が高いことも問題視されている。自分専用のスマホを手にすることが多い思春期は、「親友」の存在が心理的安定に大きく影響をする時期でもある。スマホを持つことによって、心理的なつながりを対面で意識するのではなく、SNSに依存するようになってきている子どもたちが増えているように感じる。もしかしたら、学校内での友人関係に躰いた子どもは、ネット上の仮想社会に現実逃避し、たまたま

出会った相手と心の奥深くで繋がり、実際に会ったことがない相手とのコミュニケーションに依存してしまうのかもしれない。

スマホを使ったゲームが広まって以降、利用者の多くは依存性を強めている。長時間の使用や多額の課金などよくないとわかっていてもやめられない人たちの存在は、社会問題となっている。

思春期の子どもたちがスマホを手にするこ
とによって依存性の強いものに初めから触れ
てしまい、さらには対人コミュニケーション
に偏りが生じることは、その後の心理的な影
響が大きいことが懸念される。

しかし、私たち中年期以降の大人が子ども
たちにスマホの使用について一方的に禁止し
て抑えつけてしまうと、結局お互いの価値観
の違いを埋めることはできない。彼らの大き
な価値観の変化にも歩み寄り、どのような対
策が必要であるのかを繰り返し一緒に考えて
いく必要があるのだろう。